

「第一回SDGs×Youth 知ろう。語ろう。見つけよう。」イベント参加報告書

Japan Youth Platform for Sustainability 上田 格

日程	2017年5月27日(土) 13:00 ~ 16:00
場所	電通ホール (東京都港区東新橋1丁目8番1号)
主催	UNDP/「SDGs×Youth 知ろう。語ろう。見つけよう。」実行委員会
イベント概要	<p>第1部 「私のSDGs」 ガイダンス 全体講演を通じSDGs達成に向けた個人の行動宣言、「私のSDGs」を発見するための基礎知識を得る。</p> <p>第2部 知ろう。 学生団体及びUNDPとゲストの大手企業等が運営する17のゴールごとに設置されたブースにて、ワークショップに参加。同世代の若者の目線から見るSDGsについて知る。</p> <p>第3部 語ろう。 思考錯誤、ディスカッション及び「SDGs応援ゲーム」を通して「私のSDGs」を発見する。</p> <p>第4部 見つけよう。 参加者全員の「私のSDGs」を一日の成果としてまとめ、若者のSDGs行動宣言として日本社会及び世界に向けて発信。</p>
JYPSとしての役割・参加内容	<p>JYPSではブース出展、及び第2部でのワークショップを実施した。その趣旨及び概要は以下の通りである。</p> <p>◎ブース出展及びワークショップ趣旨 SDGsゴール数に合わせ、17のユース団体（一部企業）がそれぞれ分かれ、ワークショップを実施した。ワークショップ内容は明日から(あるいは2030年までに)SDGsを推進するために、参加者がどのようなアクションプランを立てれば良いか考えるためのものである。第2部中で2度このワークショップが行われるため、300人ほどのユース参加者は自分たちの興味・関心のあるブース2箇所に参加し、具体的なアクションプランを考えた。</p> <p>◎JYPSが担当したワークショップの流れ JYPSはSDGs 17個のうち Goal 14の「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」に関するワークショップを行った。</p> <p>JYPSが担当したワークショップでは以下の3つの情報を提供し、参加者にアクションプランを考えてもらうベースとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭2分間でJYPSの組織概要紹介 ・パネリスト3名による5分ずつのスピーチ。 ・ファシリテーター及び参加者からの質問 <p>この時パネリストには</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆United Nation Major Group for Children & Youth (UNMGCY)より 吉村 達朗さん ◆Climate Youth Japan (CYJ)より 佐藤 媛香さん ◆生物多様性わかものネットワークより 有見 亜佐土さん <p>をお招きし、 吉村さんには国連オーシャン会議の紹介とマイクロプラスチック等の問題について、 佐藤さんには気候変動とサンゴ等の問題について、</p>

	<p>有見さんには持続的な水産資源の利用について、各々問題提起及び私たちができるアクションに関してお話いただいた。</p> <p>◇ファシリテーターによる質問内容◇ ①気候変動に対してユース団体や消費者はどのような対策が出来るか ②持続的な水産資源の利用についてどんな制度があるか ③海に興味を持った理由 などを質問し、各パネリストにお答えいただいた。</p> <p>◇参加者によるパネリストへの質疑応答◇ ①海洋資源取り扱いについての制度の質問 ②有見さんからお話しいただいたMSC/ASC認証に関する質問等に関する質問がなされた。</p> <p>◎参加者の人数等（第1ワーク・第2ワーク） 2回目のワークショップ後は、参加者全員がそれぞれのゴールのパネルに自分のSDGsの目標を書き、ブース内でそのパネルと共に各個人の写真を撮影した。JYPSのワークショップの参加者は約15人程度ではあったが、自らのアクションプランにゴール14（海洋）を選ぶ参加者が半数近くおり、その関心の高さを感じた。</p>
<p>所感</p>	<p>今回のイベントを通し、JYPSに興味を持ってもらうユースの数を増やすことで、個人加盟数及び団体加盟数を増加させ、8月開催予定の「JYPS全体総会」の成功へと繋げることができると確信している。加えて、JYPS以外にも多くの団体がブース出展団体として参加していたため、各ユース団体とのネットワークを構築できただけでなく、準備から当日、反省会まで通して団体に対してもJYPSの広報及び加盟団体を増やす足がかりとして活用できたと感じている。</p> <p>この繋がりを生かし、8月6日に行われるJYPS全体総会に向けてJYPS加盟団体を増加するために、各団体に対してその後のフォローアップを行うことで、スムーズな加盟案内が可能となった。</p>

